

港湾春闘

48時間スト突入

22年ぶり「GW9日連続」通告も

2019年港湾春闘は11日に東京都内で開かれた港運中央労使の中央団体系交渉が決裂、14・15日の日曜・月曜48時間ストライキ突入が確定した。国内港湾で平日24時間ストが実施されたのは1997年以来22年ぶり。組合側はゴールデンウィーク(GW)期間の9日連続スト通告も示唆し、対

決姿勢を強めている。史上初のGW10連休を前に駆け込み需要が高まっている時期の平日スト実施で、国民生活・産業への影響が懸念されている。今春闘は既に2回の日曜ストが実施された。

つせん案を「独占禁止法に抵触しないことを担保する内容ではない」などとし受諾しない中開かれた11日の中央団交でも労使の隔たりは埋まらず、14・15日の48時間スト実施に至った。

次回交渉日は未定。組合側は交渉が進展しない場合、通告済みの日曜反復ストを21日に実施する予定。さらに、上乘せと

日港協は12日午前、臨時の正副会長会議を開き

が、今春闘が収束しない場合GW中の港湾機能停止につながる恐れがある。

対応を協議。混乱回避に向け結束して取り組むことを確認した。

統一回答が独禁法に抵触しないとの中労委あっせんを忌避する姿勢からは業側(経営側)の誠意が感じられない」などと述べ、日港協の対応を非難した。



会見する糸谷・全国港湾委員長(右)